



対馬丸 通信

発行：(公財)対馬丸記念会
発行人：高良 政勝
編集：対馬丸記念会事務局

Tsushima maru press

平成 27 年 3 月 25 日発行 第 30 号

第 2 回 子供平和会議を 実施しました

日時：平成 27 年 3 月 7 日
場所：沖繩尚学高等学校

昨年に引き続き、子供平和会議が学校法人尚学学園の協力で実施されました。コーディネーターの名城政一郎 同学園副理事長（教育学博士）が現在の緊迫する国際情勢下の平和形成について、「グローバルシチズン」ー地球社会の一員であることを自覚・行動する考えのテーマで事前学習講義を行い、その後 8 グループに分かれて午後から熱心な討議が行われました。



沖縄タイムス 平成 27 年 3 月 15 日

参加者感想文

今回の平和会議では、今まで通り沖繩戦での事実や反戦に関するだけでなく、これからの私たちに何が出来るのか？ということを考えられた貴重な時間でした。これまで私は、沖繩県民として、日本人としてしか物事を判断してきませんでした。ですが、今回を機に、本当のグローバル社会が分かったので、国際人としての意識をしっかりと持ち、よりよい社会をみんなで作成していきたいです。（那覇高校二年生）

私は元々、国際関係や、政治に興味があり、このプログラムに参加したのですが、同年代の子達の意見を聞くことによって、自分の意見を改めることができ、また、考え方の幅が広がったような気がしました。初めて会う人達がほとんどでしたが、ディスカッションし、相手の気持ちを理解しようとする心のおかげで仲良くなれた気がします。とても充実した一日になりました。機会があれば、また参加したいです！（那覇西高校一年生）

しい内容だったけれども、参加者全員が意見を出し合えるという形だったのがとてもいいなと思いました。また、それと同時に現在の日本では現代史の分野がすごく短時間でサラッとすまされてしまう、という状況なので、今回のようなディスカッションを取り入れた授業というのが、教育（授業）の中に取り入れられたら、またそれが平和につながるのではないかなど考えられて、これからの支えていかないといけない私達にとつてすばらしい会議であったなと思いました。（那覇国際高校一年生）

日常生活ではなさなようなこと、平和や戦争だったり、現代社会の問題について考える機会になりました。そして、このような機会をもうけて下さりありがとうございます。私達若者がこれからの将来をになっていく中で、今回の話はほんの一部でもっと話し合えないといけないこと、解決しないといけない問題は多数あると思います。難しい問題ばかりでしたが、大人になったら解決しないといけない問題なので今から考えていきたいと思えます。そして、いろんな高校生とつながりが持ててよかったです。（興南高校一年生）

これは、とても興味深いことでした。これからの社会を創っていくのは、私たちです。世界的な問題を自分に引きよせて考えていかなければならないと思っています。講師の先生の話は、四時間聞いていても飽きることがありませんでした。いつも頭の中でモヤモヤとさせたままにしていたことが、スッキリと整理できたような気がしています。各世代には、世代としての役割というものがあると思いますが、私たちはまさに、教育を深めていかなければならない世代だと思えます。世界平和を実現するために、人々の知識を増やしていかなければならないのだとしても納得しました。（開邦高校二年生）

今までに、平和についていろいろ考えていましたが、ほかの学校の方たちといろいろなことを主題にしてディスカッションすることによって、深いことにまで触れることができ、とてもおもしろい平和会議になりました。自分では思いつかないような意見がたくさん出てきて視野を広くすることができました。この会議ではたくさん学べることができて、とてもうれしいです。これからもこういう機会があったら積極的に参加したいと思いました。（沖繩尚学高校一年生）

旭ヶ丘公園を蝶が舞う「平和の杜」に！



チヨウの食草植栽
 主催：首里城下にチヨウを翔ばそう会
 共催：対馬丸記念会・首里城公園管理センター
 日時：平成27年3月15日 午後2時～4時

チヨウの食草や蜜源となるホウライカガミ、ツルモウリンカ、トウワタ、ギョボク、シークワーサー、ペントス、合わせて五二〇本が約百人余の手でしっかりと旭ヶ丘公園内に植樹されました。



挨拶をする、左から久高将光那覇市副市長、大城安弘首里城下にチヨウを翔ばそう会会長、高良政勝公益財団法人対馬丸記念会理事長



つしま丸児童合唱団

第25回チャーがんじゅう講座
「響け平和のふるさとへ」
 ～対馬丸の子らに贈る思い出の歌～



金武町少年少女合唱団



小波津美奈子さん



屋良ありさんと銘苺涼子さん

戦後70年へ

対馬丸遺影 新たに10人

記念館 70年の節目 提供相次ぐ



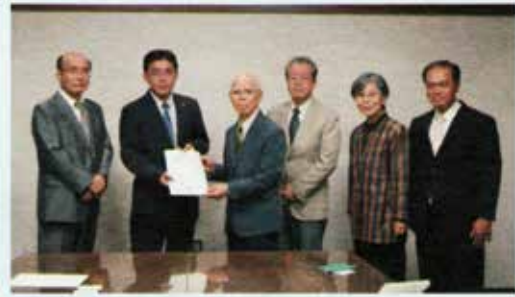
展示作業を待つ、本年度追加分8枚10人の遺影(手前)＝25日、那覇市若狭の対馬丸記念館

1944年8月の対馬丸撃沈で犠牲になった人たち10人分の遺影8枚が那覇市若狭の対馬丸記念館へ新たに提供され、パネルの展示作業が25日、行われた。通常は8月までに提供された分を展示して本年も10人分をすでに掲出しているが、70周年のことはその後も提供が続き、近年では異例の追加展示となった。同館では、「節目の年で報道などを通じ、対馬丸事件への関心が高まったためではないか」と話している。今回の追加により、同館の遺影はパネル303枚、犠牲者333人分となった。対馬丸撃沈では約1500人が犠牲になった。今回追加された遺影は、2家族7人と、10歳と13歳の男女児童、15歳の男性船員のもの。遺影は基本的に氏名の五十音順で並べられるが、スタッフは親子や家族が離れ離れにならないよ

沖縄タイムス 平成 26年 12月 26日

十二月一日、公益財団法人対馬丸記念館(代表理事高良政勝)より那覇市立小学校五年生、六年生が対馬丸記念館、旭ヶ丘公園を訪問する際の交通費と入館料を市が負担する「平和の道しるべ教室」の創設についての陳情がありました。

「平和の道しるべ教室」創設を



「那覇市議会だより 第207号 12月定例会より」

う気を配りながら慎重に作業していた。同館を運営する対馬丸記念館の渡口真常副理事長によると、最近では遺族からの直接提供はほとんどなくなり、亡くなった遺族の遺品から犠牲者の写真が見つかったり、同級生が集合影真から犠牲者を特定したりする例が増えているという。同館は今後も収集を続ける。渡口さんは「児童も含めこれだけの人数が実際に生き、亡くなったという事実を生前の姿から感じてほしい」と話していた。

上、慰霊祭の後に提供された遺影が8枚10人分と、例年よりも多く集まり、急遽追加掲示いたしました。全体で303枚、333人分になりました。

左、那覇市内の小学5年生・6年生が在学中に1度は対馬丸記念館へ訪れる際の補助金(交通費と入館料)を市に助成して頂くための「平和の道しるべ教室」の創設を求めた陳情書を系数昌洋那覇市議会副議長へ手渡しました。

ウチナー高校生から 未来のためのプロジェクト
このプロジェクトは、高校生自らが沖縄戦を伝えていく目的で設立されました。対馬丸記念館を通して、聞く側から伝える側へ変革し、平和ガイドとして県内外の同世代に伝えていくことを実践するために自主的に集った若者たちです。事前学習で対馬丸について学び、高校・大学生らに館内ガイドを行い、その後平和を伝えるためにどうすれば良いか、若者らしく真剣にディスカッションする姿がとても頼もしく感じられました。

「平和」「命の価値」とは



県内高校生 対馬丸記念館案内も
イベント企画
県内高校生が、戦争を平和について学び、伝えるための「ウチナー高校生から未来のためのプロジェクト」(以下「プロジェクト」)を立ち上げ、25日、初回のイベントとなる「OYOB FOR TRIBUTE」を開催した。対馬丸記念館の展示を見学し、中絶や生きた人への参加した。戦争を平和について語り合った。



沖縄戦 70年
PJは昨年、高校1年生で活動している。企画は、県内高校生16人が、対馬丸の歴史を伝えるためのイベントを企画した。対馬丸の歴史を伝えるためのイベントを企画した。対馬丸の歴史を伝えるためのイベントを企画した。

若者熱く議論

語り部 平良啓子さん、沖縄県功労賞、沖縄タイムス賞 W受賞!
最も早くから、対馬丸事件の語り部として活躍し、約六十年にわたり平和教育の推進に貢献されたことが評価され、平成二十六年の県功労賞・平和人権部門の受賞と沖縄タイムス賞・社会奉仕部門の両賞を受賞されました。平良さんに改めて感謝の気持ちを込め、お祝い申し上げます。

かと思われ、戦争体験者の話を聞くための若い世代が戦争について学び、次世代に伝えることが大切だと考え、PJを立ち上げた。このOYOB FOR TRIBUTEでは、参加者が「日本では、戦争の日じか戦争について語り上げられない。関心は今の戦争や紛争が起きている。日本は平和を築いていく。このOYOB FOR TRIBUTE」などの意見が述べられた。PJメンバーが参加者を案内し、対馬丸の歴史を語り、戦争の歴史を学ぶ。戦争の歴史を学ぶ。戦争の歴史を学ぶ。

来館・視察

□11月1日

維新の党沖縄プロジェクトチーム（座長・



儀間光男参議院議員）が小桜の塔を参拝後記念館の視察とヒアリングを行いました。

の委員が「平和の道しるべ教室」の陳情に関して視察とヒアリングのために来館、旭ヶ丘公園内の小桜の塔をはじめとした慰霊碑や歴史モニュメントなど周辺環境も含めて視察を行いました。

トピックス

□平成26年10月22日（第1回）
平成27年3月10日（第2回）

平成26年度平和学習推進連携委員会
学校現場と平和学習についての連携を計る委員会が今年度も2回実施され、平和教育担当者研修会（案）や現在記念館が進めているアンケート調査の結果などが報告・討議されました。

□12月1日

「平和の道しるべ教室」陳情

那覇市議会（金城徹議長）へ陳情書を提出いたしました。（前頁に関連記事）陳情に関連して宮平のり子議員（社民党）が12月定例会で市当局に対して「平和の道しるべ教室」についての見解をいただきました。

□12月26日

平成26年度遺影追加揭示並びに

順序変え（前頁に関連記事）

イベント

□平成26年8月22日～9月30日

第22回特別展「収集資料が語る

「対馬丸」と「小桜の塔」Prt



1―新聞資料から、事件後70年と慰霊碑建立60年をたどる―



遺族会時代から事務局や遺族が独自にスクラップしてきた新聞記事等を拡大展示するとともに、新たに収集した資料や写真も展示し、慰霊祭に合わせて来館した遺族の皆様に見て頂きました。

□10月18日

第25回ちやーがんじゅう講座「響

け平和のふるさとへー対馬丸の子らへ贈る思い出の歌―

声楽家の小波津美奈子さん、屋良ありささん、銘苅涼子さん、金武町少年少女合唱団、つしま丸児童合唱団による合同演奏会が開かれ、宮良長包の曲「山の子守唄」や、わらべ歌から「ふるさと」などの懐かしい歌声を館内一杯に響かせ、鎮魂とともに聴衆に感動を与えるコンサートが実施されました。（前頁に写真）

□平成26年12月26日

平成27年2月1日

第23回特別展「那覇秀作展」

恒例となった全琉図画・作文・書道コンクールの市内小中学校

児童の秀作展が開かれました。小中合わせて、約三百点の秀作が1階企画展示室一杯に展示されました。

□2月21日

第26回ちやーがんじゅう講座「きれいな歯でいきいき人生―いつでも人として生きること食べること―」

現役歯科医の高良政勝当財団理事長による、きれいな歯から生まれる健康作りの講演会が開かれ、人生において歯の大切さが改めて解る有意義な講演会でした。



ご寄附

沖縄兵庫県民有志一同（9月12日）
真言宗豊山派仏教青年会（10月7日）
遺族瀬底さんハワイ日系家族（10月18日）
久保應子さん（10月20日）
石塚之香子さん（12月1日）
海のトランペット（11月5日）
大口寄付を頂戴いたしました。

□平成26年9月8日

27年2月17日

宮里依子、那覇市観光協会ま

まーい謝金（外間邦子理事より）、

柵原盛春、上地芳子、玉橋千恵子、板野光子、祝嶺恭子、外間邦子、館内募金箱、饒平名洋子、宜名眞登喜子、高橋ミエ子、日の丸旅行社、青木忠、中川義朗、円心教舞

子協会、光文堂コミュニケーションズ(株)、椰木勝義、渡口眞常、ハワイ沖縄協力会、金城節子、大山齒科、津波古ヒサ、町田妙子、大里千代子、平良啓子、亀田明子、青木忠、垣内富貴、神谷嘉代子、中津川市立阿木高等学校、宗教法

人大誓曾會教団、長井幸一、森田道子、村越千代子、名城悦子、浜田恵子、児島憲一、沖縄県郵便局長の会、幸地秀子、宇土市立網田中学校、伊佐常雄、玉城博江、高峰しげ子、田中順一、自治労沖縄

県関係職員連合労働組合女性部、我喜屋敏子、小島和夫、仲田清一郎、青木忠、東風平朝正、稲福嘉子、又吉キク、仲田行克、ゆうなの会、玉利行夫・和代、佐藤緋紗子、堀川澄子、ソロプチミスト、石垣市役所講演会謝金（高良政勝

理事長より）、宝木愛子、又吉キク、西原町身体障害者協会、許田千恵子、富田延子、相田周一、宮副博昭様。以上の方々からご寄付を頂戴しました。心よりお礼申し上げます。

□平成26年9月8日

27年2月17日

宮里依子、那覇市観光協会ま

まーい謝金（外間邦子理事より）、